

直林 178

爾後心外、所踈音多罪

春寒猶料峭先以

逾沛健勝不相受各方面

に向い所盡力國家の

為めを慶賀せしむ義

昨夏以来脳貧血とて

時々眩暈を發し、府

歸縣後轉地保養を尋

ねし稍、輕快と赴き、

得共遂に心臓之疲れを

生し數名の醫者に精密

なると診察を求め、復

醫者の協議の結果、遠

途の旅行に危険と認

め、相違なき事たるも只

海兵遂に心臓に痙攣を
生し数名の醫者精密
に診察を求めし處
醫者の協議の結果、遠
途の旅行は危険と
相違なき事なるも只
今の客休は格別の事
無く付此際絶対上
を差留め事致さず免
角塚中及上と及後退は
の勞働又甚き精神
感動を避ける如き戒
告を受けし位素餐の
實に
上^に對し奉り忍入り
来る廿七日頃より出發
京^に後も尚健康よろ
と辭し専ら風教上社
會の道德上^に力を盡し
立憲國^に民の活動的
な氣力の鼓舞に勉め可
申覺悟を著し
上^に早速冬立憲國
國民前途の心算を就

立憲國に民の活軌的
氣力の鼓舞に勉め可
申覺悟を著京に
上より早速冬に立憲國
國民前途の心等就
高海と浮く相樂
餘と謙辞
青く日也

頓首辞

二月十八日

貞彬

大隈仁兄先生

研 北